



るうてる



2024年
5月
No.917

■発行所 ■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト ■ <https://jelc.or.jp/>
■E-mail ■ jelc@jelc.or.jp

■発行人 ■ 竹田大地 koho@jelc.or.jp
■印刷人 ■ 精文堂印刷株式会社
■定価 ■ 1部 40円(郵税を含む)
■振替口座 ■ 00190-7-71734

説教「主に向かつて心からほめ歌おう」

日本福音ルーテル小鹿教会・清水教会 笠井春子

「愚かな者としてではなく、賢い者として、細かく気を配って歩みなさい。時をよく用いなさい。今は悪い時代なのです。だから、無分別な者とならず、主の御心が何であるかを悟りなさい。酒に酔いしれてはなりません。それは身をもち崩すものとです。むしろ、霊に満たされ、詩編と賛歌と霊的な歌によって語り合い、主に向かつて心からほめ歌いなさい。」(エフェソの信徒への手紙5:15-19)

「今は悪い時代なので」とパウロは言います。主イエスがこの世にいられたから今に至るまで、世界は悪い時代であり続けています。神のみことばが伝えやすかった時はない。争いのない時代はない。差別のない時代はない。この世界が平和であったことはいつときもありません。旧約聖書創世記の時代、神がこの世界を創った最初から、アダムとエバの夫婦げんか、その息子カインとアベルの兄弟殺しに始まり、聖書を読んでもほっこりするか、安心するかしたのいに、聖書の中に平安な心で生きた人々はほとんど出てこないのです。

聖書の世界で平和が実現されたこともありませんが、平和を作ろうとする、迫害が始まるのです。それは、誰かが自分の権力を失うからです。聖書の中の権力者たちは人を痛めつけることで自分を大きく見せて、その地位を保とうとしました。主イエスが十字架につけて殺されたのは、主イエスが真実を語るお方だったからでしょう。真実が明らかになると人々は自分たちの罪の現実を見せつけられてしまいます。自分の罪を見せつけられたら、心の平安は乱れてしまいます。だから人間はキリストの口をふさごうとしたのです。けれども聖書は、罪の現実では終わりません。それ以上の大いなる現実を伝えます。それは主イエスのもたらすものが、人間の生み出す争いや憎しみを、人間の汚れを拭い、人智をはるかに超えた大きな力であるということです。

私たちは自分では自分のことをどうしても救うことのできない愚かさを抱えています。思ってもいないことを口にし、自分の保身のために他人を傷つけます。その愚かな私たちのもとに主イエスは来てくださいました。主イエスの十字架によって、私たちが賢い者として光の内を歩むことを可能にしてくださいました。

だから聖書は教えます。「愚かな者としてではなく、賢い者として、細かく気を配って歩みなさい。」私たちが賢く歩むには、自分自身を敬い、自分自身に感謝することをやめて、敬い、感謝すべき方は神様であることを知らなくてはなりません。

私たちは主イエスに神の正しさと神の愛の中で、主の御心を求めて生きるようにと言われるのです。賢い者とは、学のある人間のことでありませぬ。主の御心を第一として歩む者なのです。貧しい者の元に降つていかれ、弱い者と共に歩まれたキリストと共に歩むようにと言われるのです。主の御心がなんであるかを求め、どんな悪い時代であっても、その悪い時代に入つていき、傷つきながらも、平和を作り出すものとされていくようにと言われます。

そうして、聖書は教えます。霊に満たされ、詩編と賛歌と霊的な歌によって語り合い、主に向かつて心からほめ歌いなさい」と。コロナ禍が過ぎ去って私たちが礼拝で賛美歌を歌って賛美できるようにになりました。声たからかに賛美をささげることができると嬉しいことです。

しかし、「酒に酔いしれてはなりません」とあります。自分が酔いしれるために、自分が楽しくなるために歌うのではありません。

自分が気持ち良くなるために歌うのではありません。自分の気持ちではなく、主を第一として賛美をささげるのです。主に向かつて心からほめ歌うのです。賛美は安心と平安を生み出すだけのものではありません。苦しみに立ち向かうために、平和を作り出すために、悪い時代に出ていくためにほめ歌うのです。キリストに仕える者として、真に賢い者であるために、私たちは霊に満たされ、霊的な歌によって語り合い、主に向かつて心からほめ歌いましょう。

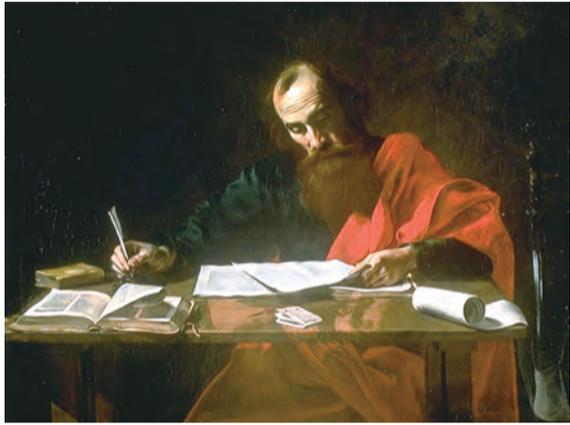
その時、私たちは自分自身身のなすべきことを教えられるでしょう。私たちが奮い立たせてくださるキリスト、この主を土台として、感謝し、恐れ、互いに仕え合う、教会はこのことに生きてきましました。奇麗なだけではない罪の現実を知つてなお、これからも私たちは主によつて生かされ、主を見上げ、ただ主に向かつて、心からほめ歌い続けたいと思います。

「しかし、わたしたちの本国は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、わたしたちは待っています。」(ライリピの信徒への手紙3:20)

私つて何者なんだろ? 自分が全く意識していないときに急に自分の所属のことや、性のことや、健康のことなどを言われ急に自分が分からなくなつたときがあります。

言つた相手の方がどのような思いで言われたのかはわかりません。ただ私には刺さりました。私つて何者なんだろ?

そのようなとき「わたしたちの本国は天にあります。」いつもお会いする方々に挨拶するのは特別ではありません。同じ天の出身の家族だからです。天の父は神様です。例えば自分が所属や性、健康についてわからなくなつたとしても大丈夫。あなたは神様にそのまます受け容れられています。



書簡を書く聖パウロ ヴァランタン・ド・ブローニョ作 油絵 1618年~1620年頃 ヒューストン美術館蔵



伊藤早奈



⑤0「私はずい」

「しかし、わたしたちの本国は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、わたしたちは待っています。」(ライリピの信徒への手紙3:20)

私つて何者なんだろ? 自分が全く意識していないときに急に自分の所属のことや、性のことや、健康のことなどを言われ急に自分が分からなくなつたときがあります。

言つた相手の方がどのような思いで言われたのかはわかりません。ただ私には刺さりました。私つて何者なんだろ?

そのようなとき「わたしたちの本国は天にあります。」いつもお会いする方々に挨拶するのは特別ではありません。同じ天の出身の家族だからです。天の父は神様です。例えば自分が所属や性、健康についてわからなくなつたとしても大丈夫。あなたは神様にそのまます受け容れられています。

入院したとき私はずいといふ人多数部屋です。たまにいかにも病人ですというように暗い顔をして下を向きほとんども話さない人がいます。もちろん本心にしんどくて上を向けない人もいます。でもほとんどの人は病人を演じておられるみたいです。

ある日他の部屋の方が退院されるときお札にと言つて紅茶のティーバッグを下さつた方がおられました。

なんでだろう?と思つてたら「挨拶してくれてありがとう嬉しかったわ。」と言われました。

家族に挨拶をするのつて当たり前ですよ。入院して何回もお会いする方々も同じような気がします。

例えば名前を知らなくても出身の国を知っています。「わたしたちの本国は天にあります。」いつもお会いする方々に挨拶するのは特別ではありません。同じ天の出身の家族だからです。天の父は神様です。例えば自分が所属や性、健康についてわからなくなつたとしても大丈夫。あなたは神様にそのまます受け容れられています。

自分はこの世に生まれ、親はこの人でこうしてはいけないと縮こまるべきではありません。

自分はこの世に生まれ、親はこの人でこうしてはいけないと縮こまるべきではありません。

自分はこの世に生まれ、親はこの人でこうしてはいけないと縮こまるべきではありません。

自分はこの世に生まれ、親はこの人でこうしてはいけないと縮こまるべきではありません。

自分はこの世に生まれ、親はこの人でこうしてはいけないと縮こまるべきではありません。

自分はこの世に生まれ、親はこの人でこうしてはいけないと縮こまるべきではありません。

自分はこの世に生まれ、親はこの人でこうしてはいけないと縮こまるべきではありません。

自分はこの世に生まれ、親はこの人でこうしてはいけないと縮こまるべきではありません。

リレーコラム

「全国の教会・施設から」⑫



日本福音ルーテル本郷教会・本郷学生センター

水上和正 本郷教会役員

本郷教会は、東京大学赤門(重要文化財)の反対側本郷郵便局の裏側にあります。本郷教会は、1956年4月18日に東京の大学生のために開所された「学生センター」と兄弟組織にあたります。アメリカの福音ルーテル教会伝道部による日本の大学生への宣



「文京区西片です。学生伝道の開始は、その「西片」の学生センター開所4日後の4月22日(日)に最初の礼拝が行われた時で学生センター並びに本郷教会が誕生しました。学生センターでは、今でも学生にネイティブな英会話と聖書を教え、本郷教会で聖日礼拝を守り、み言葉による宣教が続けられています。センターとしての伝道開始時には、まだ「本郷教会」という名はなく、礼拝を守り受洗した教会員の間から、老若男女誰でも集まれる教会堂を持ち、教会活動専任の邦人牧師を招聘したいとの要請が強くなりました。」

その結果、種々の検討、選択、資金の積立、アメリカルーテル教会への資金援助要請などが粘り強くなされ、1966年6月11日、文京区本郷(本郷郵便局の裏)に、3階建てコンクリート造りの教会堂が竣工されました。

多くの方々の祈りと努力が叶えられた瞬間です。1階は学生センターのための集会室、事務室、2階は礼拝堂、3階は牧師館です。本郷教会の特徴は、東京の大学生が生きた英語を学びつつ、聖書に触れ、神様

についての理解と信仰を身に付けることです。大学生が卒業すると就職し、東京ばかりではなく全国、海外にも派遣されるため、本郷教会は「通過する教会」としての役割とその維持、卒業生のその後の信仰あるいは宣教支援が課せられていると思つています。

これからの本郷教会は、人口が減少する中での子どもたちへの伝道、高齢化が進む社会、「本郷教会家族に「心安らぐ場所」を提

し保育の見直しをはかりました。未満児保育は、育児担当と流れる日課を導入し特定の大人が子ども一人一人と丁寧にかかわり愛着形成を確立し、生活習慣を身に付けることを大切にしています。また、以上児クラスは、縦割りのクラス編成とし、多様な人間関係の中で興味や関心の幅を広げ、主体的に遊びこむ姿が見られます。



世界の教会の声

浅野直樹 Sr. (世界宣教主事 中谷教牧師)

ロシアにもルーテル教会があります。大都市サンクトペテルブルクにあります。ロシア福音ルーテル教会(以

「現在40名の神学生がいて3分の1は女性です。出身は旧ソビエト連邦のジョージア、ベラルーシ、モルドバ、カザフスタンから、そしてウクライナ人も4人います。」

「教会も政治も経済も混乱している状況下にあつても、神学教育は健全でありたいと思つています。」

「敵意と敵意の間に橋を架けねばなりません。オープンかつ刺激的そして和解を目指すディスカッションができること、それが良い神学教育です。」

「学生たちは各地域に根差していて、多くはそこで仕事をもっているのでオンライン学習は彼らのニーズになつていきます。教育課程は3年で学士を取得できます。国際色豊かで様々な教派の教師が教えています。講義はほぼロシア語です。ただ神学校を認可しているのはロシアルーテル教会連盟だけです。国の認可を得られないといいますが難しいです。それに教派間の問題もあります。」

ロシアでルーテル教会は小さく、世界最大の国土でありながら信徒総数は約2万人。現在はELCRを構成する5つの教会、ヨーロッパ・ロシアルーテル教会(ELCR)とウラル・シベリア極東福音ルーテル教会(ELCUSFO)の協力関係を強めて教会の安定化を図つています。」

状況の安定化と政治的

行動に反対すること、ティホミロフ氏によるとそれが教会指導者の主要な役割とのこと。

「モスクワのカテドラルでは文化事業に貸し出されています。立派なパイプオルガンもあるのでコンサートもしています。」

「西側によるロシアへの経済制裁のため海外からの送金を受け取れません。友好関係にある教会や団体からの支援が得られないので、自立してやつていくしかありません。」

山内量平探訪記⑤ 古屋西朗 (日本福音ルーテル日吉教会信徒) 植村牧師と結婚後にいつたん帰郷し、まず隣村に嫁いでいた妹の熊子に伝道します。熊子はすぐに信仰を受け入れ、夫も許容してくれました。ところが姑は猛反対。家の仏壇を守るのか、離縁して実家に戻るの

か」と迫ります。すると熊子は、3人の子どもを連れて帰つて来てしまいました。困つたのは当主の量平です。彼はヘルル宣教師を自宅に招き、「神は人の心を知つているのだから、心の中で信仰しておれば良いではないか。」と言ひ、婚家に戻るよう説得するのが宣教師の義務だとまで詰め寄りました。議論の間、季野と熊子は階下で熱心に祈り、熊子は「神ならぬ者を

か」と迫ります。すると熊子は、3人の子どもを連れて帰つて来てしまいました。困つたのは当主の量平です。彼はヘルル宣教師を自宅に招き、「神は人の心を知つているのだから、心の中で信仰しておれば良いではないか。」と言ひ、婚家に戻るよう説得するのが宣教師の義務だとまで詰め寄りました。議論の間、季野と熊子は階下で熱心に祈り、熊子は「神ならぬ者を

子は日射病で亡くなり、遺言を聞かれた彼女は「子どもたちのことは神様にお願ひしてあります。私もまた主の御手に導かれてまいります。」と言ひ遺したのでした。後に熊子の長女・綾子は、山内直丸牧師夫人になりました。



熊子の遺児たち

改 宣 室

小泉基宣教室長
(日本福音ルーテル
札幌教会牧師)

小泉 今回は、このたび盲
伝(日本盲人キリスト教伝
道協議会)の理事になられ
た中島共生牧師にお話を
伺います。先生は、礼拝の
主日の祈りを点字で作っ
ておられると伺いました
が、どんなふうになさって
おられるのですか？

中島 主日の祈りをまず
は墨字で印刷し、その紙に
点字プリンターで点字を
印刷していただきます。

ルーテル幼保連合会 役員交代挨拶

竹田拓己
(大森ルーテル幼稚園
園長補佐)

主の御名を賛美いたし
ます。

さて2023年8月に
広島で開催されたルーテ
ル幼稚園・保育園・認定こ
ども園研修会後に役員
選出があり、新役員が決
まりました。2024年
3月25日に新旧役員引
継ぎがZoomで実施さ
れ、2024年4月より
本格的に新役員の働きが

印刷していただきます。最初は教
員と手分けして、必要な
3部を二文字ずつ手で打つ
ていたのですが、その後、清
水の舞台から飛び降りる
つもりで、ネットオーク
ションで点字プリンターを
購入したのです。新卒牧師
にとつては高価な買い物で
したが、いろいろ教えていた
だいて無事に使えるよう
になりました。

小泉 先生は、もともと視
覚障がい者とかかわり
がおありだったので、
中島 牧師になるまでは
全くありませんでした。遣
わされた教会での礼拝中、
主日の祈りになると必ず
下を向く方がおられると
気付いた時に、「お手元の
週報を」ご覧下さい」とい
うことですか？

中島 「見えないことは分
からないことではない」と
いうことです。見えない方
は、空気が太陽の温かさか
らその日の天気を感じ取
られます。手を握ったとき
に「先生、少し体調悪くな
い？」と言われることもあ
ります。

願っております。

保育の現場は現在激動
の時代となりました。少
子化が想定を上回るペー
スで進み、各園児の獲
得に苦労されている事と
思います。その他にも共
働き世帯も増え特に幼
稚園は変化を求められる
時代へと変わったように感
じます。園児獲得、ICT
化、保育の見直し、人材確
保、働く環境の改善など
あげたら切りがありません
。しかし向き合っていけ
なくてはいけません。各園が互
いに情報共有し、意見を
言い合える場や機会に本

ります。私も、到底そこま
では及びませんが、誰かの
変化を敏感に感じ取れる
ような、心の目を凝らす
生き方をしていきたいと
思っています。

小泉 ありがとうございます。
最後に、先生が大切に
しておられる聖句をひとつ
教えてくださいませんか？

中島 「言の内に命があつ
た。命は人間を照らす光で
あつた(ヨハネ1:4)です。
聖書が私たちに語る、暖か
くて透き通つた光を、これか
らも精いっぱい伝えていき
たいと思います。

連合会がなり、それが子
ども達へと還元されれば
と思います。



北海道特別教区 葉の取り組み

岡田薫
(日本福音ルーテル帯広教会
牧師 札幌教会協力牧師)

を身近に感じていただけ
るように「教区主題聖句
カード」を毎年作成して
います(教区総会後に作
成し、ペンテコステの前後
に全教会員に配布)。

世界的なパンデミック
に翻弄されていたさなか、
北海道特別教区も試行
錯誤しながら連帯や協働
の取り組みを続けてきま
した。「主の祈りを祈る
キャンペン」やオンライン
集会の開催と小冊子「み
言葉に生かされる」の発
行などに加え、2021
年からは教区の主題聖句

少し薄手の用紙にフリ
ントされた葉は聖書に挟
んでも邪魔になりませ
ん。片面には教区主題、も
う片面には各教会の主題
聖句や写真が印刷されて
います。往来自粛などの
影響で互いに行き来がで
きなくなつた時期、この
葉にある御言葉に励まさ
れ、それぞれの教会に連な

第31回春の全国 Ideas キャンプ報告

森田哲史
(日本福音ルーテル大森
教会牧師・宣教室 TNG
委員会委員)

昨年引き続き、対面
での「春の全国 Ideas キャン
プ」(以下、春キャンプ)を開
催しました。

今年のテーマは「最強の
絆」として、神様から与え
られているつながりを考
えるプログラムとなりま
した。序盤では、お互いの
共通点を探しながら、お
互いを知
ることを
通してつ
ながりを
考えてみ
ました。
中盤では、

学校生活などの特定のシ
チュエーションの中で、「つ
ながる」ことが強制される
世界と「つながりが一切
無くなつてしまった世界」
を想像し、発表しました。
参加者からは、私たちの
世界には良くないつなが
り、強制されたくないつな
がりもあるけれど、つな
がらなければならないと言わ
れるのも困つてしまふ、そも
そもつながりが無いと世
界は成り立たない、という
意見が上がりました。その
ような意見に対して、チャ
プレンの池谷牧師からは
「一番大切なのは、それでも
私たちがつながりの中で
生きていくという現実な
のだ」と示されました。
まとめとなる閉会礼拝
では、再び池谷牧師からヨ
ハネによる福音書15章5



る方々を覚えて祈るひと
時が慰めにもなりまし
た。2023年は新しい
礼拝式文の導入にともな
い、主題聖句は片面に集
約し、もう片面には「主の
祈り」2000年共通口
語訳」を印刷しました。
折々の集会でも配布し、
身近に置くことによつて
新しい主の祈りの習熟の
ためにも豊かに用いられ
たようでした。

牧師数の減少と広域
兼牧も始まり大きな変
化もありましたが、この
数年間の取り組みによつ

節を通して、枝と枝は直
接にはつながらないが、イ
エス様という木を通してつ
ながれていることを聞き
ました。キャンプの参加者
は住む場所も年齢もバラ
バラで、偶然に集められた
ある意味では無関係な存
在でした。しかし、春キャン
プを通して、自分と無関係
とは決して言えない存在
となりました。そして、そ
の中心にいるイエス様を覚
える3日間となりました。



北海道特別教区内の
教会の主題聖句が
記された葉

各教会を始め多くの方
の祈りと、各教区、女性会
連盟、JELLAなど皆さま
のお支えによつて、恵みの
うちに終了することがで
きました。感謝して報告に
代えさせていただきます。

近々に「思い出集」をお
送りさせていただきます
ので、ぜひご覧ください。

ルーテル学院大学・大学院 次年度以降の学生募集 停止について

2024年3月21日開
催の学校法人ルーテル学院
理事会において、近年の少
子化傾向等の影響を受け
た学生数減少のため、ルー
テル学院大学・大学院の2
025年度からの新規学
生募集の停止が決定され、
3月25日付で下記インター

ネットサイトにて公開され
ました。詳しくは以下を
ご覧ください。
<https://www.luther.ac.jp/>
なお2024年度時点
の在学生が卒業するまで、
大学での現行の教育活動は
継続されます。また神学教
育機関としての日本ルーテ
ル神学校については今後も
新入生募集は継続されま
す。本紙次号にて報告を掲
載いたします。

新任牧師 挨拶

笠井春子

(日本福音ルーテル
小鹿教会・
清水教会牧師)



この春、神学校を卒業し、小鹿教会と清水教会で牧師の働きに遣わされることになりました。これまでのお祈りとお支えに感謝申し上げます。
私が5歳の時に天に召された父は、日本福音ルーテル教会の牧師でした。父が神学生の時に私が生まれましたが、その父が宣教師研修生として学んでいたのは山本裕先生のもと静岡の富士教会であったと聞いており、私にとつては初めての東海教区の教会も父を通して生まれる前

からのつながりがありました。

生後半年のときにむさしの教会で徳義義和先生から小児洗礼を受け、その後、父の赴任先の二市教会、聖ペテロ教会、父の召天後は田園調布教会で育てていただきました。キリスト教系の高校で多くの御言葉と聖書のメッセージを聞き、大学では聖書料の教職を取得しましたが、進路を選択していく時期に差し掛かった時、牧師が不足していると聞きまし

た。たとえ働きは小さなものだとしても、もし用いてくださるのなら牧師として主に仕えていきたいという思いが生まれ、牧師を志すことを決めました。欠け多き器であっても主は豊かに用いてくださると信じます。

宣教のために遣わされた地で、主と共に歩んでいきたいと思えます。

河田礼生

(日本福音ルーテル
恵み野教会・
函館教会牧師)



主のみ名を賛美します。

このたび、恵み野教会と函館教会に赴任することになりました。これまで多くの祈りとご支援に励まされ、按手を迎えることができましたことに感謝いたします。主に祈り委ねつつ、牧師としての生涯を歩んでいきます。

私の名前は「礼生」に「生」と書きます。振り返ると、私の信仰生活は礼拝に支えられてきました。礼拝をサボることも神様に背くことがあつても、気付いた時には礼拝を通して、再び神様に引き戻されてきたように感じます。そんな経験や名前に触発を受け、神学校でも特に礼拝に深い関心を持つて学びました。赴任先の教会や街の様子を見て、あるいは若い牧師という立場で、私は地域伝道や青年伝道に強い

熱意や使命感を抱いております。その土台となるのはやはり礼拝だと思えます。ですからまずは毎週の司式、説教に尽力したいと思つていきます。

ポストコロナや社会情勢の不安など、これからますます教会は苦しい状況に直面していくことが考えられます。しかし、主の言葉は決して滅びません。100年後、200年後にも礼拝が守られ、福音の喜びが語られていることを思い描きながら、牧師として歩んでいきます。共に御

言葉にぶつかり、生かされてまいりましょう。

デイビッド・ ネルソン

(日本福音ルーテル
宮崎教会・
鹿児島教会牧師)



私はアメリカ国籍、母国語は英語です。しかし、日本で生まれ育つて、幼児洗礼は浜松教会、結婚式は東京の本郷教会、胎内の時からJELCと深いつながりを持っています。本郷教会の学生センターでボランティアする機会が与えられ、難しい時代にめげずに献身的な宣教の働きをする日本の牧師先生方の姿に感動し、尊敬します。50代に会社を早期退職した後、第一の人生において本郷学生センターで伝道師をしながら日本ルーテル神学校に入学しました。戸惑いはありましたが、神学校の校長先生は私の話を聞き、「あなたがJELCの牧師になりたい気持ちには自然なものだと感じると励ましてくれました。志や迷いを出来るだけ

正直に沢山の面接で語り、5年間をかけ、多くの人に助けられて卒業、按手に至りました。JELCにはいいものがあると思います。日本のキリスト教会には、ルーテルというスパンに意味があります。世界のキリスト教会に日本のキリスト教というスパンに意味があります。スパイスは少量でもインパクトは大きいです。今までは信徒として、これからは牧師として、JELCとのつながりを大事にしながら、福音を宣べ伝え、宣教をしたいと思

三浦慎里子

(日本福音ルーテル
みのり教会・
岡崎教会牧師)



4月から牧師として宣教の場へと遣わされることになりました。三浦慎里子と申します。多くの方に祈り支えていただき、無事に神学校での学びを終え、切磋琢磨した同級生たちと共に按手を受けることができました。皆様の多大なるご支援に心より感謝申

上げます。
3月下旬に、任地となる愛知県豊橋市へ引越しました。転入手続きの後、市役所の展望ロビーから豊橋市内を見渡すと、悠々と流れる豊川や街中を路面電車が走っているのが見え、故郷熊本との雰囲気が似ていて親近感が湧きました。豊橋市、田原市、岡崎市に礼拝堂があるため、今後は移動が多くなります。それぞれの土地の良いところを発見しながら、少しずつなじんでいくのが楽しみです。牧師として生きるということは大変なこともあるかもしれませんが、しかし今までもそうだったように、時に悩んだり立ち止まったりしながらも、神様が遣わしてくださった場所で与えられる出会いや経験の一つを大切に歩むことは変わらないでしょう。神様に導かれ、今、宣教のスタートラインに立たせていただけていることを感謝します。どうぞよろしくお願いたします。

し上げます。

3月下旬に、任地となる愛知県豊橋市へ引越しました。転入手続きの後、市役所の展望ロビーから豊橋市内を見渡すと、悠々と流れる豊川や街中を路面電車が走っているのが見え、故郷熊本との雰囲気が似ていて親近感が湧きました。豊橋市、田原市、岡崎市に礼拝堂があるため、今後は移動が多くなります。それぞれの土地の良いところを発見しながら、少しずつなじんでいくのが楽しみです。牧師として生きるということは大変なこともあるかもしれませんが、しかし今までもそうだったように、時に悩んだり立ち止まったりしながらも、神様が遣わしてくださった場所で与えられる出会いや経験の一つを大切に歩むことは変わらないでしょう。神様に導かれ、今、宣教のスタートラインに立たせていただけていることを感謝します。どうぞよろしくお願いたします。

JELCAインド・ ワークキャンプ

大学生12名がインドで義足作りのボランティア

星崎ポール
(公益財団法人JELCA職員)

公益財団法人JELCAが主催する「JELCAインドワークキャンプ」が2024年2月12日から11日間の日程で開催されました。同キャンプはJELCAが2001年から主催する海外派遣型ボランティアワークキャンプで、神様の愛をもつて社会と人に仕える方々の育成を目的としています。今回のインドワークキャンプには、ルーテル学院大学に通う学生をはじめ全国各地から19歳〜22歳までの大学生12名が参加し、インド、マハラシュトラ州のジャムケッドにある医療福祉施設「Comprehensive Rural Health Project」(以下、CRHP)において、義足作りを中心としたワークを行いました。

インドの農村地域は一般的に医療アクセスが悪く、また、経済的な事情から、治療が間に合わずに交通事故や病気で足を失う方が非常に多くいます。義足は高価で、特に貧困地域では人手や交換が大変難しいのが現状です。今回のキャンプでは、JELCAが義足のための材料費を負担し、12名の参加者が現地に赴き懸命に

作業したことで、52本の義足が贈呈されました。また、義足作り以外にも、CRHPの施設内に併設されたプレスクール(小学校入学前の児童教育施設)の壁の塗り替え作業や児童との交流、施設内の食料として野菜や果物を栽培する菜園の草抜きや苗植えなどのワークも行われました。

さらにその日の経験や感じた事を聖書の御言葉を通して振り返り、分かち合う「デイブション」も毎日行われ、キャンプチャプレンとして同行した日本福音ルーテル台岳教会・水俣教会の多田哲牧師がリードして下さいました。共に御言葉を読み、その日のワークや体験で感じたこと、分かち合いや多田牧師による説教を通して、自身がキャンプで感じたことや考えたことを神様の視点から捉えなおす時間が持たれました。今回は教会や聖書になじみのない参加者が多かったため、難しさもありましたが、ある参加者からは「初めて聖書の言葉に触れたので、興味をもつて自分でも調べてみたい」というフィードバックもありました。普段から一人一人に寄り添い、導いて下さる神様の存在やその恵みをキャンプの経験や御言葉から感じ、いつの日か信仰が与えられ教会につながるきっかけになることを祈ります。

